

コレクションと鑑賞教育 <3>

美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育の展開

日時 | 2015年1月10日(土) 午後2時～5時 (開場1時30分)

会場 | 国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階) ※同時通訳あり

参加方法 | 下記URLよりお申し込みのうえ、自動返信メールを印刷したものまたはメール画面を当日会場にてご提示ください。

<http://mmm2.momat.go.jp/symposium20150110/>

開催趣旨

コレクション(美術館の所蔵作品)、鑑賞教育、学習指導要領の3つをキーワードにした共同研究の成果報告会を行います。美術館はそのミッションやコレクションにそれぞれの特徴があり、学校と連携して鑑賞教育を行う際には、このコレクションの特徴をどう活かすかが重要です。本会では、4美術館(東京国立近代美術館、工芸館、国立西洋美術館、東京国立博物館)の性格の異なるコレクションに、学習指導要領や子どもの発達を関連付け、鑑賞の切り口を提案します。あわせて、グッゲンハイム美術館の教育部長をお招きし、カンディンスキーやF.L.ライトといった特徴的なコレクションを持つ当館が、米国の学習スタンダードをどのように反映させつつ鑑賞教育を展開させているかについてお話いただきます。ご参加をお待ちしています。

内容

- 1. 成果報告** **美術館のコレクションを活かした鑑賞教育の新しい形**
～「美術鑑賞キーワード map」の実際と活用～
一條彰子(東京国立近代美術館主任研究員)、奥村高明(聖徳大学)、
室屋泰三(国立新美術館主任研究員)
- 2. 講演** **米国の美術館の現場から～鑑賞教育の今日的展開～** ※同時通訳
シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター)
- 3. シンポジウム** **コレクションを生かした鑑賞教育とは～国内外の美術館の実践から～**
寺島洋子(国立西洋美術館)、シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館)、
今井陽子(東京国立近代美術館工芸館)、上野行一(帝京科学大学)、
岡田京子(国立教育政策研究所)、藤田千織(東京国立博物館)

ゲスト・スピーカー

シャロン・バツスキー (Sharon Vatsky)

グッゲンハイム美術館 教育部(学校・家族向けプログラム)ディレクター

グッゲンハイム美術館教育部長。学校・教員・家族向けプログラム統括及びニューヨーク館・ビルバオ館の展覧会関連学校・教員向け教材作成・統括を行う。前職、クイーンズ美術館では教育キュレーターとして多様な年齢層の利用者に向けた近現代美術展覧会の関連プログラムを企画した。また、ニューヨーク市立大学大学院、コロンビア大学大学院において博物館教育、学部において素描、絵画、美術史、美術教育の教鞭をとる。

ニューヨーク大学卒業、ニューヨーク州立大学ハートフォード・アート・スクール大学院修了。2008年度「芸術教育への重要な貢献者」に授与されるチャールズ・マーシャル・ロバートソン賞を受賞。



お問い合わせ：東京国立近代美術館教育普及室 edu@momat.go.jp

※このシリーズ講演は、JSPS科研費・基盤(B)24300315の助成を受けたものです。

「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」(平成24～26年度、代表：一條)